

日本教育方法学会 第29回大会プログラム

《大会日程》

第一日 10月2日・土	9:30	課題研究 I			課題研究 II		
	12:00	休 憩					
	13:00	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6
	14:30						
	15:00	課題研究 III			課題研究 IV		
	17:30						
	18:00	会 員 懇 親 会					
	20:00						

第二日 10月3日・日	9:00	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12
	11:30						
	11:40	総 会					
	12:30	休 憩					
	13:30	シ ン ポ ジ ウ ム					
	16:30						

1993年10月2日(土)・3日(日)

於 成 蹊 大 学

大会参加要領

1. 会場案内：成蹊大学は、JR中央線吉祥寺駅より、バス(関東バス①, ②番のりば)で10分、徒歩20分です。
吉祥寺駅までは、新宿駅からJR中央線で15分、渋谷駅から京王井の頭線で17分です。
2. 受付：大会第1日(10月2日)は9:00から、第2日(10月3日)は8:30から、大学8号館1階ホールで行います。
 - ・大会参加費は、一般会員3,000円、学生会員2,000円です(発表要旨集録代を含む)。
 - ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
 - ・今年度(93年度)の学会費を既に納入されている方は、受付時に『教育方法22』をお受け取り下さい。なお、今年度までの学会費(一般会員5,500円、学生会員4,000円)を未納の方は、併せてお納め下さい。
 - ・会員懇親会の参加受付の行いますので、是非とも参加して下さい。(詳しくは11ページの「インフォメーション」をご覧ください)。
 - ・なお、受付にて「ネームプレート」を用意しておりますので、お名前をお書きの上、おつけ下さい。
3. 昼食：大会期間中は、学生食堂をご利用下さい。
第2日(日)も、特別に学生食堂を営業していただきます。食券は、直接学生食堂にてお買い求め下さい。
4. 研究発表：発表会場は、4頁の「大学8号館案内図」等をご覧ください。
自由研究発表の発表時間は以下の通りです。

個人研究	発表	20分	質疑	10分
共同研究	発表	30分	質疑	10分

(ただし、口答発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
なお、本プログラムの司会者と課題研究提案者は50音順です。
自由研究における共同研究発表者の○印は、口頭発表者です。
5. 会場校連絡先：〒180 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 成蹊大学

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局をお願いします。

SEIKEI LIFE MAP

— 市役所エリア —

緑の武蔵野の行政の中心地、市役所を中心として、10haの武蔵野中央公園、スポーツ施設、文化施設などアメニティ施設が充実しています。また、桜並木や色々な樹木の名にちなんだ遊歩道も多くあり、市民の散策の場として親しまれています。テニスコートやグラウンドで汗を流す成蹊大生の姿もよく見受けられます。

— 成蹊エリア —

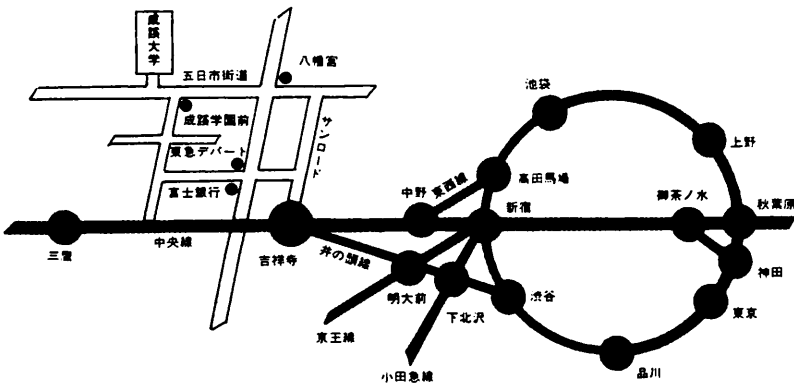
吉祥寺エリアとは対照的に武蔵野の面影を残した閑静な住宅街の中、成蹊のシンボルである200本のけやき並木と桜並木に囲まれた成蹊大学は、都心近くの大学でありながら学問研究の場としてこれ以上ない環境に恵まれています。

吉祥寺エリア

若さがみなぎるエリアです。このエリアは店舗数千をこえる都内でも新宿・銀座・渋谷につぐショッピングタウンです。中でも時代の先端を行く情報やファッションの発信基地として、青山・六本木とともに東京のイメージリーダーの役割を果たしています。とうぜん成蹊大生もトレンドの作り手として、その高感度さを発揮しています。

井の頭エリア

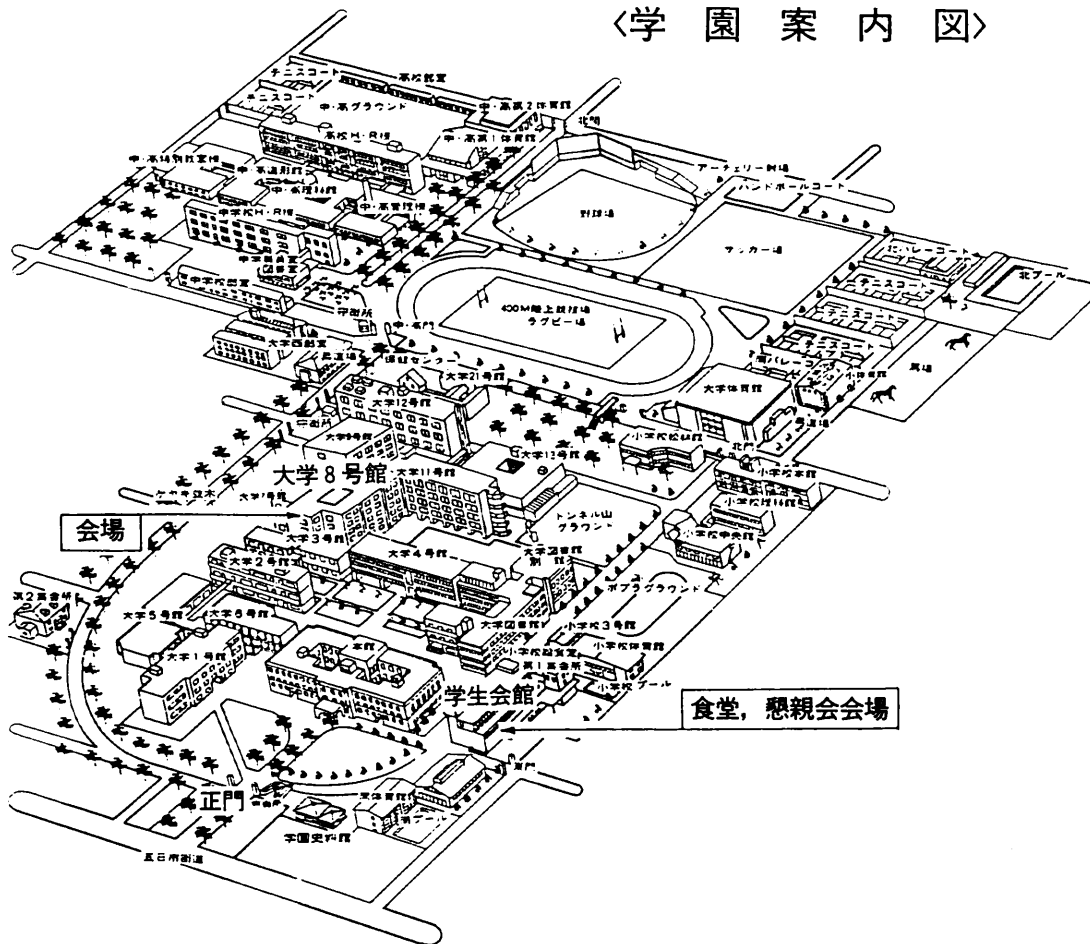
緑の武蔵野のランドマーク井の頭公園は、井の頭池を中心として、バードウォッチングの地として、桜、梅などの樹木が多く、付設の動物園などととも広く都民に愛されています。また、上野公園と並んで桜の名所として有名で、ここでのお花見は東京の風物詩のひとつとなっています。



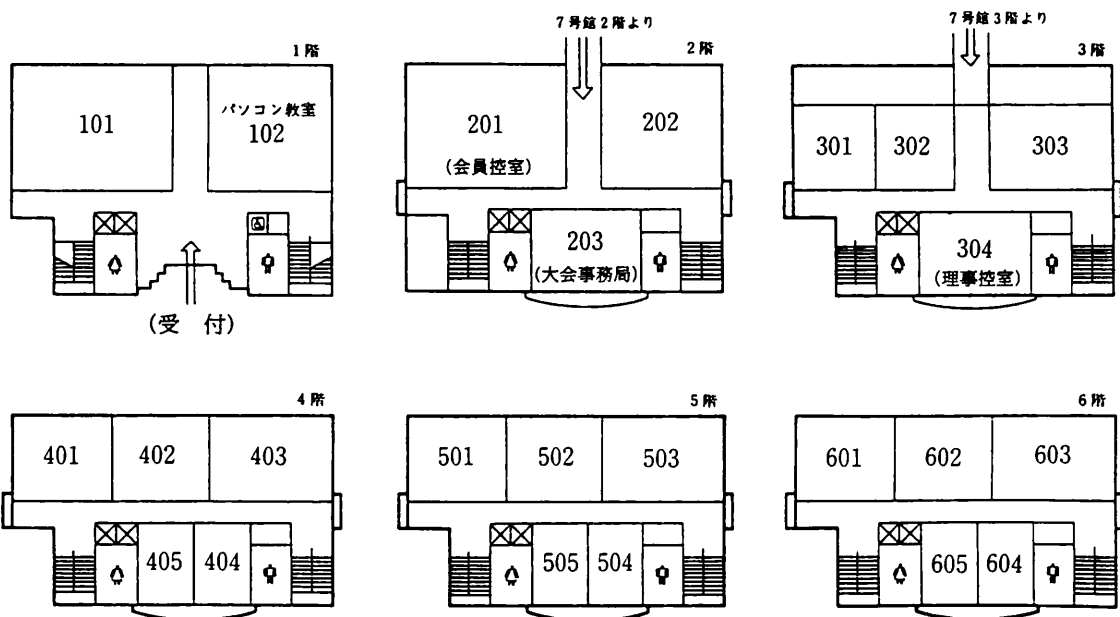
新宿：JR中央線で15分
渋谷：京王井の頭線で17分

- 中央線・総武線 ●中央線・総武線
●井の頭線・地下鉄東西線 — 吉祥寺駅中央口下車
●吉祥寺駅前より関東バス(1-2番のりば)……約10分
●吉祥寺駅前より徒歩……約20分

〈学園案内図〉



〈大学8号館案内図〉



10月2日(土) 午前

課題研究Ⅰ 「教科」概念の検討

(8-101室)

(9:30~12:00)

司会者

市川 博 (横浜国立大学)

水越 敏行 (大阪大学)

提案者

梅原 利夫 (和光大学)

教育課程の構造と教科 17

—「新教科」開発の動向にふれて—

清水 毅四郎 (滋賀大学)

「教科」概念の検討 18

—新「教科」誕生の動きの分析を中心にして—

山崎 準二 (静岡大学)

「教科」概念の検討 19

—教育方法史研究の立場から—

(設定の趣旨) 小学校低学年での「生活科」の誕生や高校「社会科」の「地理・歴史」「公民」への再編, いくつかの先進校での「記号科」や「人間科」等, 新たな教科の試みが行われている。そして, これらの動きは, 従来の教科の単なる統合・分化にとどまっていない。このような状況のなかで, 今, あらためて「教科」概念を問い直し, その成立根拠と原理についての検討を行なう。

10月2日(土) 午前

課題研究II 教育における「体験」概念の検討

(8-202室)

(9:30~12:00)

司会者

寺尾 慎一 (福岡教育大学)

藤田 昌士 (立教大学)

提案者

新井 孝喜 (筑波大学)	教育における「体験」概念の検討 …………… 20 —明治・大正期の東京高師附小の実践を例として—
佐藤 潤一郎 (成蹊小学校)	実践報告 かたつむりをそだてよう …………… 21 (第2学年6~7月) —「こみち科」単元「夏をさがそう」の一展開—
寺西 和子 (愛知教育大学)	体験的活動とそのカリキュラム化 ……………22 —〈知〉のとらえ直しと〈意味〉の社会化—

(設定の趣旨) 今日、生活科などの主張に見られるように、子どもの「体験」重視の教育が強調されつつある。また、「擬似体験」「虚構体験」,「個性」「表現」といった認知科学や現象学のアプローチも注目されてきている。このような傾向を視野に入れて、「体験」概念を検討しつつ、教育実践における「体験」の意義と有効性、ならびに、その限界について検討する。

10月2日(土) 午後

自由研究 1

(8-301室)

司会者 小野 擴 男 (奈良教育大学)
庄 司 他人男 (福 島 大 学)

- 13:00 ドイツ各州における事実教授の変遷 23
—ヘンゼルの分類カテゴリーを使って—
原 田 信 之 (河北総合病院看護専門学校)
- 13:30 ヘルバルトにおける「訓育的教授」の実践構造 24
住 野 好 久 (広島大学大学院)
- 14:00 教育学講義のフィードバック行為による「二面的開示」事象 25
渡 邊 光 雄 (筑 波 大 学)

自由研究 2

(8-302室)

司会者 佐 藤 学 (東 京 大 学)
平 野 智 美 (上 智 大 学)

- 13:00 シンボリック相互作用論の教育方法学的研究 26
—ドイツにおける理論的受容を中心に—
田 代 高 章 (広島大学大学院)
- 13:30 「われーなんじ」関係としての子ども 27
—子どもを捉える視座の研究(その3)—
角 野 幸 代 (神戸女子大学大学院)
- 14:00 教授学研究における「相互主体性」の問題 28
—現象学的アプローチを軸に—
白 石 陽 一 (熊 本 大 学)

自由研究 3

(8-404室)

司会者 五十嵐 二 郎 (比治山女子短期大学)
中 村 亨 (九 州 大 学)

- 13:00 疑問の表現に現れた授業の展開について 29
—学年別の授業分析— 李 霜 華 (九州大学大学院)
- 13:30 効果的な英語の学習方法の研究の総括 30
橘 堂 弘 文 (鈴峯女子短期大学)
- 14:00 授業における追求の方向性と授業形態の関連(その4) 31
—一年国語科・音読学習を通して—
○伊 崎 一 夫 (狭間小学校)
○北 川 金 秀 (前西谷小学校)

10月2日(土) 午後

自由研究 4

(8-405室)

司会者 伊東亮三(広島大学)
小林篤(兵庫教育大学)

- 13:00 授業論の中日比較—体育授業を中心に— 32
宋 栄 芬(神戸女子大学大学院)
- 13:30 社会科教科書の歴史的分野の用語の問題点について 33
—小学校社会科教科書を中心に—
矢 部 玲 子(北海道教育大学大学院)
- 14:00 社会科学習評価における問題場面テスト 34
—ハーバード社会科の社会的論争問題分析テストを手がかりにして—
棚 橋 健 治(鳴門教育大学)

自由研究 5

(8-504室)

司会者 中野和光(福岡教育大学)
山口修平(純真女子短期大学)

- 13:00 力学的な生活的概念・理論と学習との関わりの
発達的研究と教育内容の検討(1) 35
—中学1年・力の学習— 関 谷 建(京都大学聴講生)
- 13:30 算数科学習指導における話し合いへの児童の態度について 36
—数学的コミュニケーション能力の育成にむけて—
金 本 良 通(埼玉大学)
- 14:00 数学と美術の連携授業の試み 37
○藤井悦雄(大阪音楽大学)
○井上正允(筑波大学附属駒場中・高等学校)

自由研究 6

(8-505室)

司会者 大槻和夫(広島大学)
本田敏明(茨城大学)

- 13:00 教育方法と学習者の反応—加配校と一斉校— 38
石坂和夫(国立教育研究所)
- 13:30 授業リフレクション研究の成果を国語科教材研究に結ぶ 39
澤本和子(山梨大学)
- 14:00 新学力観の評価方法の危険性 40
小笠原喜康(日本大学)

10月2日(土) 午後

課題研究Ⅲ 中等教育実践の課題と方向

(8-101室)

(15:00~17:30)

司会者

佐藤三郎(大阪経済法科大学)

杉山明男(吉備国際大学)

提案者

乾 彰夫(法政大学)	高校教育実践再編成の課題と条件を探る …	41
木原俊行(大阪大学)	中学校における創造的学習の萌芽 ……	42
	—その可能性と問題点—	
西尾範博(流通科学大学)	総合学科創設による 高校教育改革の課題と方向 ……	43

(設定の趣旨) 今日、中学校における「選択コース別指導」「習熟度別指導」、高等学校における「総合学科」の創設の動き、「単位制高校」の出現等、中等教育は従来の問題に加え、新しい問題にさらされつつある。これらの現状・動向をふまえながら、中等教育の位置を明確にし、あるべき個性化・多様化の方向を探る。

10月2日(土) 午後

課題研究IV 教育方法学研究における「知の枠組み」の検討 (8-202室)

(15:00~17:30)

司会者

碓井 岑 夫 (和歌山大学)

吉本 均 (神戸女子大学)

提案者

子安 潤 (愛知教育大学)	授業における指導概念	44
山住 勝 広 (大阪教育大学)	教科教授過程研究の 社会文化的アプローチ	45
渡邊 光 雄 (筑波大学)	「二面的開示」概念の再構成	46
	—新しい「知の枠組み」を求めて—	

(設定の趣旨) 今日の学校・教育をめぐる状況と価値観の揺らぎは、教育方法学研究のあり方や「知の枠組み」の再検討を要請している。昨年度の課題研究「教育方法学における学際的研究のすすめ方」に引き続き、今大会では、戦後授業観の総括を行ない、21世紀教育を展望しつつ、新しい「知の枠組み」の構築をめざす。本学会では、創立30周年を目前にして、この課題に総力を上げて取り組むために、研究グループを組織し、継続的に研究を進める予定である。

インフォメーション

会員懇親会

日 時：第1日（10月2日） 18：00から
会 場：成蹊学園教職員食堂
会 費：3,000円程度

会員相互の親睦をはかるため懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いします。

会員総会

日 時：第2日（10月3日） 11：40～12：30
会 場：大学8号館202教室（8-202室）
主な議題：会務報告
1992年度決算
1994年度予算案
次期大会校

書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』ならびに研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーの販売を会員割引価格にて販売いたします。この機会に是非お求め下さい。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、一部800円にて頒布しております。

なお、『教育方法』最新刊第22巻は、本年度会費を納入された方には、随時お手元に郵送させていただきます。

自由研究7

(8-101室)

司会者 三枝孝弘(白鷗大学)
三原征次(大分大学)

- 9:00 新教育におけるモンテッソーリ教育学の位置 47
井出麻里子(上智大学大学院)
- 9:30 フレーベルの「表現-理解」に関する人間学的考察 48
船越美穂(神戸女子大学大学院)
- 10:00 「交わり能力」を育む保育指導の原理 49
—0, 1, 2歳児の発達の課題を中心に—
光本弥生(広島県立保育専門学校)
- 10:30 子ども理解としての「意味づけ」に関する一考察 50
上野ひろ美(奈良教育大学)
- 11:00 ラムス Ramus, Petrus の「方法」概念に関する一考察 51
中野和光(福岡教育大学)

自由研究8

(8-302室)

司会者 鈴木秀一(札幌学院大学)
藤原幸男(琉球大学)

- 9:00 教授=学習過程を捉える「知の枠組み」に関する一考察 52
—「子どもから」の視座の教授学的検討を中心に—
尾島卓(広島大学大学院)
- 9:30 「幻想の教材, 教材の幻想」に関する一考察 53
森本佐和子(立教大学大学院)
- 10:00 教授学におけるヴィゴツキー・ルネサンスの展開 54
—"neo-Vygotskian"の学習理論を中心に—
庄井良信(広島女子大学)
- 10:30 「新教育」のクライテリアについての反省 55
—デューイ新教育百周年を目前にして—
平光昭久(椋山女学院大学)
- 11:00 M. リップマンの『子どものための哲学』(II) 56
—小学校高学年向け教科書を中心に—
安藤輝次(福井大学)

10月3日(日) 午前

自由研究 9

(8-404室)

司会者 小田切 正 (北海道教育大学)
川口 幸宏 (学習院大学)

- 9:00 杉崎 瑠と研究学級 57
—総合学習の源流をさぐる—
木下 いずみ (川崎市立東小田小学校)
- 9:30 明治30年前後における個性教育論に関する一考察 58
松本 裕司 (大分県立日田高等学校)
- 10:00 「教える」と「学ぶ」の関係把握 59
—戦後授業観の問題史的研究(その2)—
草信 幸世 (神戸女子大瀬戸短期大学)
- 10:30 北方性教育社同人における綴方作品評価の変遷 60
—童心至上主義の克服過程—
田淵 久美子 (活水女子短期大学)
- 11:00 生涯学習時代の学力と教育方法に関する一考察 61
—問題と研究の枠組みについて—
神 郁雄 (関東学院中・高等学校)

自由研究 10

(8-405)

司会者 齋藤 浩志 (相愛女子短期大学)
須藤 敏昭 (大東文化大学)

- 9:00 カリキュラムにおける学習活動と学習経験に関する研究 62
中野 真志 (大阪市立大学大学院)
- 9:30 統合教科における教材の構造と子どもの認識のあり方 63
飯島 敏文 (大阪教育大学)
- 10:00 高等学校の環境教育における体験重視の指導方法のあり方 64
千葉 浩三 (宮城県伊具高等学校)
- 10:30 子どもの環境問題意識に関する一考察 65
○土井 捷三 (神戸大学)
○吉永 潤 (神戸大学)
○疋田 康弘 (神戸大学付属住吉小学校)

自由研究 11

(8-504)

司会者 霜田一敏(愛知教育大学)
諸岡康哉(金沢大学)

- 9:00 斎藤喜博・詩の授業についての批判的検討 66
—何を受け継ぎ、何を否定すべきなのか—
阿部昇(茗溪学園中・高等学校)
- 9:30 斎藤喜博の横口授業「山の子ども」の分析(3) 67
井上光洋(東京学芸大学)
- 10:00 子どもの表現過程の相互関連と授業の構造 68
—小5図工「自然のリズム(ステンドグラス)」の分析—
○日比裕(名古屋大学)
○的場正美(名古屋大学)
○飯島薫(名古屋大学)
○石川英志(岐阜大学)
○柴田好章(名古屋大学大学院)

自由研究 12

(8-505室)

司会者 長石敦(兵庫教育大学)
水越敏行(大阪大学)

- 9:00 パラダイム論に関する一考察 69
武井勉(茨城大学大学院)
- 9:30 ハイパーメディア教材の作成原理に関する行動分析的考察 70
—子ども—コンピュータのインターフェイスに関する一考察(2)—
小柳和喜雄(常磐大学)
- 10:00 学生の授業参加の方法としての「演じること」について 71
—大学教育実践研究(4)—
佐藤年明(三重大学)
- 10:30 テレビ画像介入による授業の活性化の一工夫 72
—大学での授業を例として—
大庭茂美(九州女子大学)
- 11:00 情報処理教育における方法論(I) 73
—情報活用能力の養成—
○今井昌彦(東海女子短期大学)
○本橋進(東海女子短期大学)

10月3日(日) 午後

シンポジウム 「新しい学力観」を問う

(8-101室)

(13:30~16:30)

司会者

柴田 義松(成蹊大学)
豊田 ひさき(大阪市立大学)

提案者

稲葉 宏雄(京都大学)	「新しい学力観」を問う ……………	74
	—学力の本質と機能—	
駒林 邦男(岩手大学)	「新しい学力観」の基本特徴と問題点 ……	75
竹内 常一(國學院大学)	知識・スキル・態度・価値 ……………	76
	—学習論の立場から—	
日比 裕(名古屋大学)	経験学習・知識学習における 知的確かさと見通し ……	77

(設定の趣旨) 学習指導要領の改訂にともない、学力観の見直しがされている。そこでは、関心・意欲・態度を重視する学力観への転換が主張されている。このいわゆる「新しい学力観」の登場によって、指導観や評価観も揺れている。そこで、この「新しい学力観」を検討することにより、教育実践上の課題を探る。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法 1.	教科内容・指導方法の現代化	1 9 6 6	(品切れ)
教育方法 2.	授業改造の基本問題	1 9 6 8	(品切れ)
教育方法 3.	授業の組織化と教師の指導性	1 9 6 9	(品切れ)
教育方法 4.	学力差と教授・学習過程	1 9 7 0	(品切れ)
教育方法 5.	教育方法学' 70年代の課題	1 9 7 2	(品切れ)
教育方法 6.	授業研究の課題と方法	1 9 7 4	(品切れ)
教育方法 7.	現代学校教育論の再検討	1 9 7 5	(品切れ)
教育方法 8.	教育課程再編の原則	1 9 7 6	(品切れ)
教育方法 9.	現代訓育理論の探究	1 9 7 7	(2,163円)
教育方法10.	学力の構造と教育評価のあり方	1 9 7 9	(品切れ)
教育方法11.	現代授業理論の争点と教授学	1 9 8 0	(2,472円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,678円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,884円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1 9 8 6	(2,266円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,472円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,987円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(2,000円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,760円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,760円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1 9 9 2	(1,760円)

最新刊・教育方法22『いま、授業成立の原則を問う』

<内 容>

- I. いま、授業成立の原則を問う
- II. 教育において「指導」とは何か
- III. 大学における「教育方法学」教育の検討

【教育方法】は、大会当日、会場にて会員割引価格で販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

18巻からは「会員配布制」となりましたので、学会費納入された方には、明治図書より直接お手元まで郵送いたします。

〒170

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

Tel.(編)03-3946-3151・3152

Tel.(営)0482-56-1175